



国民年金の保険料納付が困難な学生は「学生納付特例」

日本国内に住むすべての人は、20歳になったときから国民年金の被保険者となり、保険料の納付が義務づけられています。学生に対しては、申請によって在学中の保険料の納付が猶予される「学生納付特例制度」が設けられています。

学生とは？

学生納付特例という学生とは、大学（大学院）、短期大学、高等学校、高等専門学校、専修学校及び各種学校、一部の海外大学の日本分校に在学する学生で、夜間・定時制課程や通信課程の学生も含まれます。なお、私立の各種学校については、修業年限が1年以上の家庭の場合は都道府県知事の認可を受けた学校に限り、また海外大

学の日本分校については文部科学大臣が個別に指定した家庭に限ります。

所得基準は？

学生納付特例には所得基準があり、本人の所得が次の額以下の場合に対象となります。

【118万円＋扶養親族等の数×38万円＋社会保険料控除等】

申請者本人のみの所得をみるため、本人以外の家族の所得は問いません。

年金との関係は？

老齢基礎年金を受けるためには、原則として保険料の納付済期間（保険料免除期間を含む）が25年以上必要です。学生納付特例の承認を受けた期間は、この老齢基礎年金の受給資格期間に含まれます。ただし、老齢基礎年金の年金額の計算対象となる期間には含まれません。

また、学生納付特例制度の承認を受けていれば、その期間は、保険料納付済期間と同様に障害基礎年金の支給要件となる対象期間に含まれます。

申請書の提出先は？

申請書の提出先は、住民登録している市区町村の窓口です。

また平成20年4月から、在学する大学の窓口でも申請手続きができるようになりました。

大学の窓口で申請手続を行なうためには、在学する大学等が学生納付特例事務法人の指定を受けている必要がありますので、よく確認してください。



必要な添付書類は？

- ・年金手帳
- ・学生等であることを証明する書類（在学証明書または学生証などの写し）
- ・前年所得の状況を明らかにすることができると書類

- ・退職（失業）した人が申請を行う場合は、退職（失業）したことを確認できる書類（雇用保険受給者証、雇用保険被保険者離職票等の写し）

申請が遅れると、申請日前に生じた不慮の事故や病気による障害について、障害基礎年金を受けることができない場合もありますので、注意してください。

所得は正しく申告しましょう

免除申請、若年者納付猶予、学生納付特例を承認する際は、前年の所得などが基準となります。所得は正しく申告しましょう。

未納より有利になります

学生特例の期間も、老齢基礎年金や障害基礎年金、遺族基礎年金を受給するために必要な期間に入ります。10年以内であれば、後から納めて（後納）、老齢基礎年金を満額に近付けることができます。ただし、当時の保険料に一定の加算額が上乗せされますのでご注意ください。

◇お問い合わせ先

住民課戸籍年金医療グループ
（電話34・2121内線413）
日本年金機構 旭川年金事務所
（電話0166・72・5002）

